

アサヒビール（株）社員による森林整備活動を支援

平成 27 年 11 月 7 日、箕面市箕面滝の上流に位置する箕面国有林において、「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」主催の森林整備活動のイベントが開催され、昨年と同様、アサヒビール株式会社の社員とその家族 36 名が参加して、下刈り・植樹作業及び樹木保護ネットの設置などで汗を流しました。



協議会会長から歓迎の挨拶

活動に当たり、同協議会の会長から森林整備活動の意義も含めて歓迎の挨拶がありました。

続いて大阪府北部農と緑の総合事務所緑地整備課の課長補佐から、シカによる樹皮剥ぎを防止するための樹木保護ネットの意義や効果について説明がありました。

樹木保護ネットを設置



家族で保護ネットを巻き付ける

この後参加者たちは、作業種ごとに分かれて作業を行うこととし、樹木保護ネットの設置では、大阪府の職員からシカの被害を受けないためのネットの張り方について指導を受けながら、多くの樹木にネットを巻き付けていきました。

また、この目的がわかるように、「シカによる食害防止樹木保護ネット」と記された標示板も同時に取り付けていきました。

下刈り・植樹作業を実施

下刈り・植樹作業では、当センターが指導を受け持ちましたが、当協議会の構成員である日本森林ボランティア協会（3 名）からも協力をいただき、昨年植樹したヤマザクラ苗の生長を促進させるため、手鎌を用い、生長の妨げとなる灌木類等を刈り払っていきました。



昨年植樹した苗を守るために下刈り

また、昨年の植樹以降、一部の苗が枯損したため、同ボランティア協会から丁寧な植え方の手本を披露した後、枯損した箇所に苗を補植していきました。

今回補植したのは、エドヒガン苗 10 本とヤマザクラ苗 12 本で、昨年植樹した苗と合わせて順調に育つと、6～7年後には多くの花を咲かせることとなりますが、数年後にこの地を訪れていただければと考えています。



エドヒガン苗を植樹する→

木工クラフトを楽しむ

午後は、芝生広場で、「水源の森ジオラマづくり」と「野生動物の足あとをつくろう！」に分かれて木工クラフトを楽しみました。

「水源の森ジオラマづくり」では、箕面国有林の役割が理解しやすい水源かん養機能を取り上げて、森林の意義・役割を説明した後に作製に取りかかりました。

また、「野生動物の足あとをつくろう！」では、ニホンジカが増えすぎた状況やその被害、生物多様性を守っていくためには対策が必要との説明を行ったのち、動物の特徴を知ってもらうため足あとづくりを行いました。

作品の中には、アイデアユニークな物も出来上がり、いつもながら子どもたちの発想の豊かさに感心させられました。

今回の取組では、飲料を生産・販売されている企業に対し、国有林のフィールドを提供するとともに、森林の水源かん養機能についての理解及びニホンジカによる森林被害で多様な遺伝資源の存続が危うくなってきている状況を認識していただきました。同時に森林や自然に対する関心を持ってもらうきっかけづくりになればと期待しています。



(写真上) 家族でジオラマ作りの様子
(写真中・下) できあがった作品